グラウンドホールの中心に大ホールを据え、縁に沿っ てその他施設(小ホール含む)を配置。専門性の高い エリアと市民利用エリアとの間に**適切な距離**をもたら しつつ、**両者を接続し交感させる場**として、敷地全体 に流動的な空間を生み出す。

たとえば大・小ホール関連諸室は、舞台やリハー サル室、練習室へ、**一般来場者の動線と交わることな くアクセス可能**でありながら、開口やラウンジなどを 介してグラウンドホールと接続する。また、小ホール は市民が演者として利用することもあるため、時とし て舞台裏の機能がそのままグラウンドホールとつなが **り、一体利用可能**な計画となっている。そのため、楽 屋口のみならず、グラウンドホールからの市民用楽屋 口を設けている。グラウンドホールには表裏の活動が

溢れ、歩いているうちにふらりと展示や音楽などに出

会っていく。

## せんだい青葉山グラウンドホール

一音と記憶が響きあう大きな穴ー 地下 (GL-5.0m) 駐車場計画 防災設備用蓄電池 飲料水受水槽+ポンプ 地下駐車場 ● ひ ● \*\* \*\* ○ 常設展示 舞台音響備品庫 主舞台 地下駐車場(86台) グラウンドホール 舞台工房 衣装工房 **上** 上 中練習事 凡例 ──→ メモリアル動線 ----> キッチンカー動線 ---> 一般車両動線 大ホールの舞台裏・搬入口と隣接させつつ、 ·---> 関係者動線 -4 つの広場 - - - - ------ 搬入動線 |建物全周を大きく取り囲む屋外空間には4つ| 気軽に立ち寄ることのできる開放性を

プロの練習利用と市民の発表利用の2面性を 市民活動ラウンジ 「大ホールは地下搬入、小ホール」 敷地全周を取り囲み、豊かな遊 搬入は地上搬入として分離。 - 土手を形成し、澱橋通線からの 小ホール搬入エリアからグラウ Ⅰ敷地周辺の植生と溶けあいなが♪ 冠水リスクを低減する ンドホールへは車が乗り入れる ら新たな人の流れを作る。 ことができ、プロ練習室群や 「ワークショップゾーンへの搬出 控室 控室 入も容易な計画となっている。 地上駐車場(4台) -練習室群計画 -- 市民も利用可能 大ホール上部 市民が主に利用する駅側に点在 情報・資料3 する練習室群と、プロが主に利 用する北側に集約する練習室群 舞台リハーサル室 **の2タイプを計画**し、グラウン ドホール全体に音楽の場を広げ -公演のない白には誰もが日常的に利用可能な バルコニ≠空間となるホワイエ 北側の練習室群、企画展ゾーン は、一体的な運営のもと、必要し に応じて**共有・交換可能**な計画 3F(GL+10.0m) 平面図 1:600 としている。 企画展示室(1) | GG GG GG GG | 大ホール客席 大ホール客席 大ホール客席 小ホール客席 幕間テラス サラウンド型 プロセニアム型 オペラ型 ·GL+5m 1階 1132席 1274席 1132席 292席 2階 514席 374席 374席 66席 3階 336席 336席 336席 1842席 358席 駅前広場 • GL ± 0m 国際センター駅南口から続く歩道をグラウンドボール内部まで引き込む グラウンドホール上部 小練習室 野外音楽広場 ----ゲラウンドホール側に開く、非対称な客席 - 必要に応じてキッチンカーや搬入車両も乗り入れ可能 幕間テラス -駅やロータリー、桜の小径から訪れる人々の流れが · GL ±0mm アシー・ニーンでも広場に 心地良い距離感で交じり合う <del>- 客席が舞</del>台を囲む<del>サラウンド型を基本に</del> - − 自走式を採用し、オペラも上演可能な 上部光庭からクワイエットスペースまで光が差し込む ── /小ホール公演時のホワイエ、休日のキッチンカーエリア、春のお花見



クセス方向に応じて、多様な空間に出会うこ

「とのできる計画となっている。 \_ \_ \_ \_ 」

a. さくら広場には小ホールホワイエとリハ・練習室 b. バスを降りるとロータリーの大屋根の下に着く。ここはグラ f. グラウンドホールを見下ろせるコ の入口が並ぶ。見晴らしの良い3階ラウンジ・リハ ウンドホール入口のひとつ。学生たちが楽器を練習室から小ホー で、展示方法についての打ち合わせ。震災 室では、毎年ピアノの発表会があった。広場から直 ルに運んでいる。屋根が架かっているから雨の日でも濡れずに から 20 年以上が経つけれど、いろいろな 接楽屋に出入りできるので、本番前でも外で遊んで 運べる。 いた大好きな場所。

- 同時代のメディアを用いた記憶の展示に特化し、更新と蓄積が絶え間なく続く り下 (GL-5.0m) 平面図 1:600





ルたスロープを下ると、オープン e. 地層が見える大階段。練習室が近くにあり、いつも誰か の影がゆらゆらと見える。3層のホワ 席 に 向 か い、 ホ ワ イ エ



1F(GL ± 0m) 平面図 1:600

ケストラを取り囲み、ショパンのピアノ協奏曲第一番が までいたグラウンドホールの賑やかさがなん 始まる。グラウンドホールで見た震災の展示と、故郷を だかとても活き活きと見える。帰りは地下の、 追われたショパンの旋律が重なり、いつもより深く色鮮 グラウンドホールに直接出られる出口から帰





【構造計画】

斜をゆっくりあがり、さくら広場に戻って きた。小ホールでは先ほど準備に追われて いた吹奏楽部の発表会が始まっている。夕 闇にホール内部が浮かびあがり、広場とー 体となっていた。

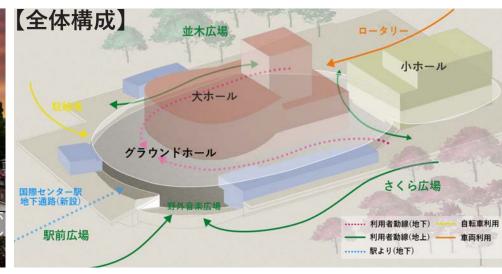
2F(GL+5.0m) 平面図 1:600

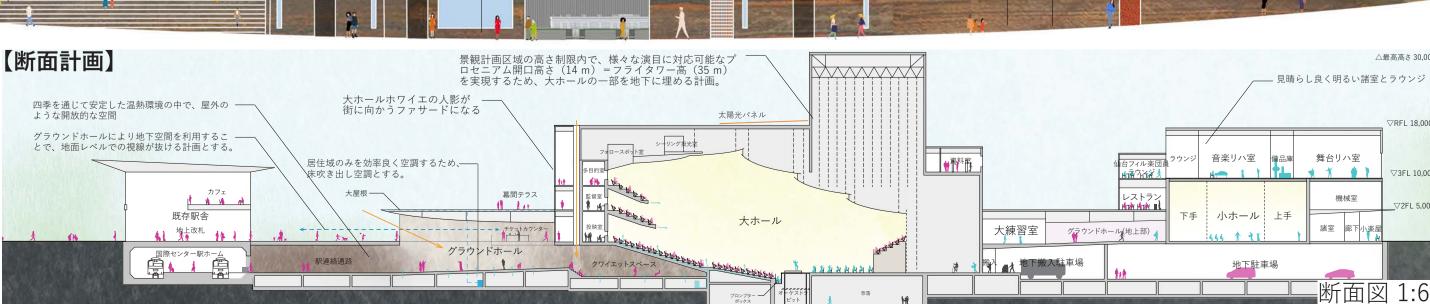


さらに遠くの津波の被害にあった被災 を思う。離れたこの場所だからこそでき ことを考え続けたい。

る。小、中練習室は音楽だけでなく、市民サークルになアーカイブライブラリーがある。今日は次回が楽器の演奏をしている。階段を客席にして野外コンサーイエの隙間から差しこむ光も人影で揺の階段を上って大屋根 k.グラウンドホールと大ホール観客席の隙間へ潜り込むとクワイエットスペースがあだ。 も使われていたり。みんなの創造活動を支える場が、展のアイディアを練るために資料を調べよう。 トをしていることも。床の展示映像と重なるように、楽器 らめきながら、クワイエットスペース を抜けると急に明るく る。ひんやりとした岩のような塊に腰を下ろして一息つく。グラウンドホールが賑や の手前をぼんやり照らすのが好きだ。なり、視界が開けた。かなほどに、静かな空気がここには流れる。すぐそこなのに遠く感じられる。 グラウンドホールのあちこちにある。 の音がグラウンドホールに響き、心地良い。 【グラウンドホール内部展開イメージ】 000000







グラウンドホールを実現する大屋 根は、鉄骨トラスの一般的なピッ チ(5~7m)により構成される。 屋根下を無柱空間とするため、鉄 骨トラスの最大スパンである 20 m ごとに構造体となるボリュームを 大屋根が青葉山を背に軽やかに浮 縁から中央に向かって最大 2m 程 度膨らむお椀のような断面<u>形状を</u> 展版のもお掘りる 7.50 採用。深い屋根懐は施設全 体の設備ダクトを格納する。 29